

第4回 文京区保育ビジョン策定検討委員会 議事要旨

日 時 平成18年11月9日(木) 午後7時から午後8時15分

会 場 シビックセンター2101・2102 会議室

議事次第

1. 開会あいさつ
2. 文京区保育ビジョン策定に向けた検討課題について
3. 調査について
4. その他

出席者

汐見稔幸会長、萩原久美子副会長、佐々木陽穂委員、大川米子委員、深谷純子委員、菅原良次委員、飯田恭委員、安達陽子委員、高橋修平委員代理、高橋万由美委員、森吉弘委員、久武昌人委員、紀野美重子委員、藤田くる美委員、安江とも子委員、大角保廣委員、根岸かをる委員、吉田シズ子委員

議事録

(保育課長) 皆さんこんばんは、夜遅くありがとうございます。何人か遅れていらっしゃる方がいらっしゃるようですが、第4回の保育ビジョン策定検討委員会を開催をさせていただきます。それでは汐見会長、お願いいたします。

(会長) 皆さんこんばんは、お忙しいところどうもありがとうございます。お手元の資料の確認をしていただきたいのですが、それぞれのグループで具体的なビジョンの策定に向けた議論が始まりました。各グループ、すでに1回ずつ会議を持っています。資料第9号はその議論の要点についてまとめさせていただいたものです。

今日は、引き続きグループで討議をしていただきたいのですが、その前に、ほかのグループでどういう意見が出ているのかということをお互いに知る必要があると思いますので、最初にグループ討議の中の論点、意見について、簡単に解説させていただきたいと思います。その後、補充意見等を求めまして、グループ討議にもう1回入りたいと思います。それでは、ご説明をお願いします。

(保育課長) それでは、資料第9号に基づきまして、これまで4つのグループで議論をいただきましたので、それぞれのところでどのような議論がなされたのか、事務局の方から概略についてお伝えをいたしたいと思います。恐れ入りますが、資料第9号をご覧くださいと思います。

第1グループは、11月6日に実施をいたしました。まずこの中では、子どもの視点をきちんと持ちましょう、子どもの育ちをきちんと考える、そこを中心にした方がいいでしょうということから議論がスタートしました。

地域環境の中では、やっぱり歩道が狭くてベビーカーを押して通れるようにしてほしい。それから、乳児が外遊びをする場ができないのかどうか。それから、図書館などでの読み聞かせの実施などをしてほしい。また、安心して外出するためには、たばこを吸いながら歩いている人などについて規制をするというような形が大事なのではないかと。それから保育園については、もっと

PRをしていくべきではないか、というような議論が出ていました。

おめくりいただいて、2ページになりますけれども、子どもの育ちとの関係では、基本的な生活習慣、生活の知識を伝えていく、生きる力の醸成ということが大事なのではないか。まだまだ知育ということではなくて、基本的な力、生きる力を育てていくことが大事だろうと。それから、お父さんに子育てに積極的なかわりを求めていくべきではないかということ。それと、やはり保育や子育てに関する情報紙、こういった部分の情報の提供というものが広く行われるべきではないかというようなお話が出されました。

第2グループは、10月31日に実施をし、「子育て・親育ちの支援」について議論をいただきました。やはりここの中でも、子どもの視点に立つこと、親子の絆、つながりを一番大事にしながら検討していく必要があるだろうというご意見の下で、キーワードとしては産じょく期の支援が大事なのではないか。また、子どもを産んで3カ月ぐらひは子育てのノウハウがなく、慣れるまでが非常に大変だったので、ここを支援するべきではないか。それと、支援者がなかなかいない夫婦で住んでいる家庭にとっては、2人目を妊娠、出産をしたときに、上のお子さんを見ながら、ちょっと買い物に行くなどについて不便だった。2人目を妊娠したときから、出産に対しての何らかの支援というものが需要ではないか、というようなお話がありました。

本当に支援が必要な家庭に対してどうするのかというところでは、小児科でのカウンセリングですとか、保健センターの積極的なアプローチが必要なのではないか。それから、ネグレクトだとか虐待といった問題になりそうな、もしくは問題のある家庭を早期に発見をしていく体制づくりというのが必要だろうというお話がありました。

それから、地域を見守る役割を、町内会、これまでも果たしてこられたと思いますけれども、もう少し明確にしてはどうか。また、現在社協でやっているファミリーサポートについては、もう少し機能するような形でうまく利用できるようにならないかというようなお話でした。

就学前の子どもの遊び場の確保の部分では、先ほどもちょっと出ていましたけれども、文京区は空き地がなく、交通量も含めて道路ではなかなか遊べないので、そういった整備をしてはどうか。児童遊園はもう少し大きなもの。遊具などを排除するのではなくて、伸び伸びと遊べる広場というような視点を持ってもいいのではないか。同じように、公園のハードの整備というところでは、親と一緒に清掃会などをすることによる愛着を持てる公園づくりなども含めて、実施をしてはどうかというようなお話がなされました。

おめくりいただきまして、先ほどの子育て情報の関係ともかかわってきますけれども、やはり子育て中というのは紙ベースのものをなかなか見ることができないので、ウェブなどで積極的に何らかの情報が発信をされるとありがたいというようなご指摘。電子媒体をもっと活用する努力、仕組みづくりが必要だろうというようなお話ですとか、それから、インフルエンザについては補助制度がないので、予防接種の補助といったなお話も出ていました。

第3グループについては、おめくりいただきまして6ページですけれども、11月7日に実施をし、「親の就労・多様な生き方の支援」について議論をいただきました。この中でも、子どもの生活を中心に働き方を考えるなど、子どもの視点をきちんと持っていくべきであるというご意見が出されました。

それから、企業による取り組みの支援をしてはどうか。先進的な取り組みをしている事業所に対して、税制面や表彰制度の実施によって、子育てに対する理解と取り組みを進めていく。そしてもう1つは、文京区ならではの企業の取り組みというものの検討ができないだろうか。また、やはり男女が協働して子育てをしていくんだという意識の醸成というものが必要だろう。

保育園の充実というところでは、働く場での工夫だけでなく、入園の予約制度など、働きやすく預けやすい制度の工夫が必要だろう。同時に、預けるのであれば安心して子どもを預けられる保育の質の向上といった問題があげられました。

それと、地域の人々がネットワークをつくって、子育てのしやすい環境をつくっていくこと。ファミリーサポート制度、ベビーシッターサービスの充実。それから、子育てひろばのように登録制だと安心感があるので、そういった会員制のようなイメージの施設というのを広げていくことで、つながりが自然と安心してできていくのではないかというようなお話がありました。

第4グループは、9ページになりますけれども、11月2日に実施をいたしました。保育園の機能ですとか、幼稚園だとか保育園にとらわれないで、就学前の子どもの育ちをどうしていくのかというような、もう少し大きな視点を持つことが大事なのではないかということ。在園児に対する保育・教育内容の中では、例えばお月見など伝承的な遊びや文化の継承というものが保育の場でなされている、そういったことを大事にしていくべきなのではないか。

地域の子育て支援というところでは、緊急的な保育、一時保育の充実。それから、やはり新しく区民になった人が定着をして、子どもが育っていく地域をどうつくっていくのかという視点。

保育を担う人の体制づくりということでは、保育士の専門性を高めていくこと。ネットワークの果たす役割が大きいのではないかというお話がありました。それから、保育の質をどういうふうに職員間で継承をしていくのか。先生方のスキルの継承というところの大事さが指摘されました。

さらに、地域の子育て力ということでは、保育園の中で保育士の対応というだけではなくて、市民も含めた保育園づくりということで、関係機関やさまざまな世代の力を借りながら保育園の運営をしていく。そういった開かれた保育園というようなイメージについても、今後検討していくべきなのではないかというような議論をいただいたところです。

ちょっと雑駁になりましたけれども、大まかな論点についてはこのようなことだったのかなと感じております。以上です。

(会長) ありがとうございます。お忙しい中、それぞれのグループで議論をいただいて、私がちょっと今、事前に読ませていただいたときに、さすがこうやって具体的に議論をすると、かなり大事なビジョン、ビジョンの芽みたいなものかもしれないけれども、出てきているなというふうに感じました。

ちょっとだけ時間を取りますので、ほかのグループの議論内容に対して、質問をしたいとか、こういうのはどうなっているんだ、ということがもしございましたら、ここで今、発言していただきたいと思います。あるいは、ご質問でも結構です。

特にございませんか。特になければ、議論をしていてちょっと困ったとか、これはどういうふうに議論していけばいいんだ、というような問題で、少し質問したいということがあれば、それも出してください。お願いします。

(公募委員) 議論の中でというか、皆さんといろいろなところでお話をできて、とても疑問に思っていることがあるんですね。これだけ私たちの時間をかけて、みんな一生懸命やっていて、今回私、アンケートを取らせていただいたんですけども、アンケートをすることによって、これまで本当に区が何をしているか、どうしているのかをまったく知らなくて、興味のなかったお母さんたちが協力してくださって、本当に区のための保育ビジョン策定検討委員会なのだなという気がするんですね。

中間報告があるということなんですけれども、私たちの報告に対して、区長はどういうフィー

ドバックをしていただけるのかなというところが、皆さん心の中にあるんじゃないかと思うんですけども、そこら辺はどうでしょうか。区長の方にお願ひするというか、希望を出すというか、要請を出すというか、そういったことはしていただけないでしょうか。

(会長) せっかく議論したものが、実際に行政にちゃんと反映されなければ、まったく意味ないじゃないかということ、そういう虚しさを抱えながら議論したくないというご意見です。ただ、これはもともと区長からの諮問です。これから文京区で子どもを育てやすいまちづくりをしていくために行政は何をすればいいのか、ということについて、皆さんで案を練ってほしいと頼まれたものなんです。私たちは案を練りました。ですから渡すときに、この意見をできるだけ尊重してやっていただきたいという形で渡すわけです。その後は、私たちとしては具体的に、こうしなきゃだめじゃないかという部分は、具体的な手だてがないかもしれませんが、これをできるだけ区民に周知徹底して、私たちはこういうものをつくって、これをやってもらうということを決めて、区長はそれを認めたんだというふうにしていくということまでが、差し当たりの私たちの仕事なんだと思うんです。

だから、一応建前としては区長から頼まれてやっているわけですから、できたものは、実際すぐにはやれるプランと、相当時間がかかるプランとにたぶん分けられると思いますけど、この方法でやってほしいと、私たちはビジョンをつくったんですからやりなさい、ということを書いていく武器に常になるものだというふうには理解しているんですがね。

(公募委員) おっしゃる通りだと思うんです。汐見先生も呼ばれてというか、お話があっけりまして、お仕事として受けていらっしゃると思うんですけども、こういう形でどうでしょうか。委員会をしていく中で皆さんの要望が出てきたのでいかがでしょうか、という話の持っていき方でこちらの希望を出すということは不可能なんではないでしょうか。

中間報告をしました。じゃあ具体的にここの部分、ここの部分をやりましょうとか、やりませんか、じゃあ方針はどうしましょうという、このビジョン策定検討委員会に対する回答というか、具体的にどうなるのかというフィードバックを何らかの形でいただけないかなと思うんですが。

(会長) 要するに、区長にこういう形になっているんだけど、これについて実際にやれる見込みはどうですかと、やる姿勢は区長にありますか、というようなことを詰めるような会議を1回持てないかということですね。分かりました。それは普通の諮問会議ではあまりないんですけどね。

要するにこれを区長に説明するというような場をつくって、これはこういうことなんですということをしっかりと私たちの意志としてもう1回伝えると。ただ、それは公式の場でそういうことをするという事は、今までたぶん慣行としてはないと思いますので、公式にはできないと思いますが、そういう場をつくってもらいたいということをお願いしてみようという事は、私も個人的にはあってもいいと思います。これを説明させていただきたいです。ただ、それはたぶんもうちょっと先の、まとまった段階になると思うんですけどね。ちょっと努力してみます。

(公募委員) お願いします。

(団体推薦委員) 今、汐見先生からお話があったと思うんですけど、ちょっと情報提供をさせていただきます。確かにおっしゃる通り、これまでの普通の慣例、慣習では、諮問を受けたことに対してどうするかということについて答える場合もあれば、そうでない場合もある。大方の場合、たぶんそうでないと。あるいは答える場合には、非公式にしているというのは先生のおっし

やる通りだと思えます。

それを申し上げた上で情報提供をさせていただきたいと思うのは、文京区の場合は、今から2年ぐらい前でしょうか、「文の京」自治基本条例という条例をつくっておきまして、この条例は別に、長がこれを守らなかった場合に、何か過料が科せられるとかそういうことではなくて、罰則があるものではないものであります。

その中に住民も責務があるんですが、区側にもいろいろ義務が課せられています。詳しい情報は忘れましたけれども、一言で申し上げますと説明責任。この本題からはそれですが、区の職員の資質の向上といった項目があります。いずれにせよ、住民と対話をして、区長に代表される区の職員たちは、受け止めて、どう考えたのか、なぜそういう判断に至ったのかについて説明する責務を持っているということが決まっておりますので、慣例にとらわれず、せっかく自分たちでつくった条例ですから、それに沿った対応というのでも十分考えられます。そういうことも含めて、この場でも議論をしていってもらいたいと思えます。以上です。

(会長) その可能性について、後でまた検討させてください。どうぞ。

(団体推薦委員) 前に私は会議に出たときに、そもそも区長がなぜそういう諮問をしたのかというところの現状認識、ここまでしかできていないからこういうビジョンをつくってほしいという、ここまでの資料というのを出してほしいということをお願いをしたと思うのですが。そういうものが送られてきているのであれば、申し訳ありません。体調が悪かったの見逃したのかもしれないので、うちに帰ってもう一度確認したいと思えますが。例えば、今日の議事要旨を拝見して、これはあくまでもワーキングで話し合われたことであって、事実であるか、事実でないかも分からないですし、印象レベルのものもありますし、夢を語っているものもあるし、もしかしたら間違いも含まれているかもしれないというようなものです。これに対し、今日の委員会に向けて、区の方で、ここはこうなっていますよとか、こういう意見が出たそうですけれども、実際はこうですか、確かに文京区ではまったく取り組んでいませんというようなことが、直接に情報として区の方から提供されなければ、これ以上どういうふうに議論を進めていっていいのかということが全然分からないんですね。

そもそも、例えば一覧が無理であれば、区の便利帳みたいなものを今年新しくつくられますよね。それをお配りいただければ、何が今あるのか分かるわけですよ。もっと詳しい、ビジョンに必要な就学時前に関する資料があるというのが一番理想だと思うんですけども、それが無理であれば、区の便利帳でもいいですし、窓口に行けばもらえるものの一覧でもいいですし、何かそういうものを議論のベースとしてご提供いただいた上で、こういったワーキングの内容について、区としてはどうなっているという総括を付けた資料を委員会に出していただくというようにしていかないと、何かこうまったく見えません。しかもほかのグループのことも分からない中で、何かグループ同士が競争させられているような。このグループはここまでやりましたとか、ここまで議論を深めましたとか、委員会以外にこんなにやりましたというようなことを報告するような場になってしまうと疲弊してしまいますので。その辺についてはどうなのでしょう。

どういう了解でこの議論が進んでいるのか。特に区としてはどういうふうにこのワーキングを進めて、中間報告にもっていくのか。その辺はどうなのでしょう。すみません、まとまりがなく申し訳ないんですけども、よろしくお願ひします。

(会長) 区としてはどうかということは、今、全然問題ではないと思えます。私たちが議論しているんであって、これ一個ずつに対して区に説明せよというようなことをやっていたら、たぶん12月までには何もできないと思えますので。

ちょっと今、競争させられているという意外な意見があったんですが。そういうつもりはまったくなかったんです。できるだけ生の実感に基づくビジョンを出していただきたい、子育てを体験した人が感じている不安だとか悩みだとかを解消していけるようなビジョンをできるだけ出していただきたいということで、グループ討論をさせていただいているだけで、これをそのまま載せるというのではなくて、また練り合わせて、重なっているところなどを改めて整理して、こういうビジョンとして報告したらどうですか、ということで整理をさせていただくわけです。そのための議論をしているので、これを少しずつビジョンとして練り上げていくようなことを次にやっていただきたいということを、今日はお願ひしようと思っていたわけです。

例えば1ページで、ビジョンに近いところでは、地域環境で最初に、歩道が狭い、ベビーカーを押して通れるように、というのがございますね。そうすると、文京区に限らず、日本の道路というのはほとんど歩行者を優先につくられていなくて、自動車を優先してつくってきたわけですね。広い道路だったらまだ歩行者用道路もあるんですが、狭い道路なんかはほとんど自動車専用道路みたいになっていますね。そのために、散歩をするとか、バギーに乗せて歩くのに非常に危ないですね。そういう道路のあり方を少しでも変えて、安全な散歩のできる道路というものを文京区で実現したい。だから、「子どもが安心して歩ける道路づくり」というものが1つ出てきますね。

それで具体的に、例えばこういうふうに見たらどうかということについて、すべての道路でということはずぐはできないと思うんですね。でも文京区をいくつかに分けて、モデル道路をつくり、ここはある時間帯は、例えば自動車は通行できないとか、ここはこういう形で自動車を半分しか通れないようにするんだとか、そういう形で、例えば公園に行く道が安全に通行できる、そういうようなモデル道路をつくってみてはどうかとか、そういうふうな具体的なところまで多少、ビジョンとして書けるんじゃないかと。これはたぶん、区としてももちろんどこかで考えてはいると思うんですけども、私たちとしては、こういうものをぜひやってほしいというようなところを、私たちの知恵で練られるところまで練って出していかなきゃいけないと。

そういうのが1つずつ、例えば乳児が外遊びできる場づくりとかありますね。公園をもう少し、本当に子どもたちが遊べるような公園に変えてほしいと、そういうご意見がかなり出ていますね。ここはすごく大事だと思うんです。せつかくある公園が、本当に子どもたちが遊べるような公園に必ずしもなっていない。だとしたら、子どもたちが本当に安心して、しかもわくわく遊べるような公園に改造していく。文京区の公園は面白いというようなまちづくりというのをここで出していく。

そのために、例えば公園づくりのプロだとか、それから専門家と住民と行政が改めて公園づくり委員会というのをつくって、世界中のいろいろな公園を参考にしながら、あまり金をかけなくても、このぐらいだったらできるじゃないかと、そういうようなプランづくりをしていく。そういう委員会をすぐに立ち上げるとか、そういう形のビジョンですよね。そういうことを少しずつ、少しずつ練って行ってほしいわけですね。

あまり具体的なところまで書く必要はない。それは後でまたいろいろなところで考えていただきたい。でも、こういうものを実現してほしいということについては、どんどん書けるんじゃないかと思うんですね。ですから、そういう形で少しずつ詰めていく議論をしていかなければと思っているわけです。

それから、これを見たらまだ抜けているものがたくさん。例えば障害を持った子どもに対する文京区なりの厚いフォローというか、手当て、こういうシステムをつくらうというのがまだ全然

出てきていないですね。そういうことについても、ぜひビジョンをつくっていただきたいと僕は個人的に思っています。

それから、図書館というのがありますね、1ページに。文京区ですから、本好きな子がいっぱい文京区というようなことで、図書館のあり方を徹底的に充実しようというような、今の2倍ぐらい図書館をつくっていかうとか。全体として図書館の司書が減らされている方向ですね。文京区は逆をやろうとかね、そういうようなビジョンをどんどん書き込んでいくというようなことです。少しずつここに書かれていることを、ビジョン案として練っていただきたいというのが次のお願いなんです。

(団体推薦委員) 先ほど委員から出されていた懸念というのは、僕はむしろ弱まっているんじゃないかなというふうに、ちょっと、このワーキンググループの結論を見て思った次第です。つまりどういうことかということ、もちろん障害者の問題などは、もっといろいろと議論しなければいけない問題だと思うんですが、それぞれのグループの成果を見てみると、例えば第1グループだと子どもの育ちをとにかく中心に考える。大人の都合に合わせるんじゃなくて、子どもの育ちを中心に考えるということが出てきているし、第2グループでも、大人の視点に立ち過ぎて子どもの育ちを無視してしまうということがないように、ということがまず最初にあります。第3グループも、子どもの生活に合った働き方をどう考えるか。第4グループももちろん、保育所のことですからそういうことについて議論されたわけで、かなりその点で、収斂していつている部分がある。当たり前と言えば当たり前のことなんです、とにかく子どもの視点に立ってということが出てきて、それについて重きを置いて、各ワーキンググループで議論がなされたということはずごく重要なことだと思っています。ですから、競い合うということじゃなくて、何か収斂してきたかなという感じがします。

それで、第1グループでもう1つ議論をしたことは、子どもの生活習慣、生活環境とか、これをとにかく守ってあげたい。それが今、実態としてどうなっているのかという調査を、例えば5年ごとにでも始めてみようということが出されたんですね。予算の関係もあるでしょうから、全戸調査が今回できるかどうかというのは難しいかもしれませんが、例えばサンプリングでもいいのでとにかくやってみて、それを5年ごとに、例えばベネッセなんかも5年ごとに出しているし、どういうふうに子どもたちが生活しているかということを一確かめていくと。それで、それに対応して区も施策をするし、また区民全体がその子どもの生活について反省する。そしてそれを省みてどう改善していくべきかということを考えるような、そういう機運をつくり上げていたらどうかということが、第1グループとして出てきました。

調査をするということになるとコストとか時間がかかりますが、ぜひこれをやっていただければ、これが柱になるんじゃないかなという気がしております。

(団体推薦委員) そもそも話に戻って大変恐縮なんです、先ほど汐見会長がビジョンをつくり上げてほしいというふうにおっしゃったんですが、行政の素人である私たちから見て、ビジョンって果たして何なのかというのが、正直申し上げてよく分からないんですね。英語ということもあるので、ただビジョンを訳したときに、いろいろな訳が出てきます。構想なのか、理念なのか。いろいろな説明会の中でも、そのあたりがあいまいになったまま来ているので、ビジョンをつくり上げてほしいと言われても、ひな型が何もない状態で、もしかしたら私だけなのかもしれないんですけども、よくイメージがつかえません。ほかの自治体、確か気仙沼市とか保育ビジョンを掲げていると思うんですけども、そういうものをめざしているのか、それともまったく違う漠然としたものなのか。

今の私の気分としては、何かレストランのメニューを決めてくださいと言われていたような感じで、取りあえず柱立てに洋風の料理、中華料理、いろいろあると。その中で皆さん自由にいろいろ考えてください。それを素材、食材から考える人もいれば、これだったらお客さんが来てくれるだろうと思われるようなことから考える人もいると思うんですけど、メニューがそもそも何なのかというのが分からないとつくれないんじゃないかと思うんです。ちょっとその辺を明確にさせていただきたいです。これは行動計画ではないので、あまり具体的な施策には落とし込めない。かといってじゃあ、もっと漠然としたものだったら児童憲章があるわけなので、あるいは福祉法があるわけなので、そこまで漠然としてしまうとまた。ちょっとその、どこまで具体的に今回出していけばいいのかを教えてくださいたいのですけれど。

(会長) 今、例えば第1グループのところを出ていることをビジョンに少し仕立て上げてくれと言ってもご理解いただけませんか。児童憲章とか具体的な施策になってしまいますか。

例えばベビーカーが安心して通れるような道路をぜひ文京区につくりたいということで、そのために、どういうものをつくってほしい、というようなビジョンをつくれればいいのかということで、実際にそれを具体的に施策にするのは大変なことだと思いますよ。だけど、そういうまちにしたいというような思いを、ここで書いていくということをしていただきたいと思います。

(団体推薦委員) そうすると、例えばベビーカーの話で言うと、子どもが安心して道路が歩けるような文京区にしてほしいという文言に落とすのか。それとも、例えば歩道に必ず白い線を引いて…。とちょっとその辺が、どこまで具体的に…。

(会長) そういう細かな施策、それに対して具体的にどうするかについては、それはまた行政が考えるべきことなんです。

(団体推薦委員) そうなんです、そこが分からないんです。どこまでのあいまいを、具体的に落とし込むのか。もともとこのビジョンを開催するにあたって、区の方で説明会があったんですね。今回ビジョンの位置付けはどうなのか。文京区の基本構想があって、その下に子育て支援計画があって、その中間に位置するという説明があったんですね。ちょっといまひとつ、いまだにそれがどういう意味なのか分からないんです。それは保育計画ともまた違うものであるという説明を受けているんですよ。保育ビジョンの位置付けというのが、基本構想があってその下に位置するのであれば、基本構想と矛盾するようなことは書けないですよ。ちょっとその辺が…。

(会長) 私たちは、必ずしもそのことは前提としていません。私たちはあくまでも、基本構想だとか何とかに縛られて議論しているわけじゃないです。これはここにいる人はみんな一応、最初に確認したことなんです。ですから、その議論の連続性というのがあるわけですね。

それで今言ったみたいに、具体的な施策を書くのではない。でも、その施策をリードするような、例えば誰もが安心して通れる道路というものを、歩けるような道路をとにかくつくる。そのために、最初は少なくともモデル的なところからでもいいからやってほしいというような、そういうものを少し書いていこうという、そういうことなんです、ここの役目は。

ですから、実際には書き込んでいくときにずいぶんまた議論になっていくと、もう少し具体的に書けないとか、これは具体的過ぎるんじゃないか、とかっていうことが出てくるとは思いますが、そういうことを少しずつ詰めていきながら、私たちがつくったビジョンです、というものを少しずつ形にしていくしかないと思うんです。

依頼されているのは、具体的な施策をつくるのではなく、ビジョンをつくっていただきたいということですから、そういう意味でやっていくしかないと思うんですが。

(公募委員) 私も、区に依存するとかそういうことじゃなくて、もっと区の側がこれまで何を

考えてきたかということを知りたいと思います。それは、第2グループの方がおっしゃったように、区は私たちとは違う、いろいろなもっと広い情報とか、今まで調査したものとか、予算もお持ちだと思うんです。しかし、私たちとはまったく立場が逆で、私たちは日常的な、直接かつ具体的な世界に住んでいますけど、区の側はとかく抽象的な段階にいるわけです。でも一方では、我々よりもっと広い、私たちのように自分の周囲だけしか知らないというような、そういうことではない立場や情報をお持ちなので、区としては政策において、どういうことを今まで考えてきたけれどできなかったとか、それから、区長としてはどういう構想を持っているんだということを知りたいと思います。

私たちは何も知らなくて、何か突然機械が故障して、よく見えないのに飛行をしなきゃならないというふうな感じです。私たちの直接かつ具体的な細かい要望は非常に大切なことだと思うんです。しかし、それをどうビジョンという形に集約していくかということ、今の会合では、私だけかどうかわかりませんが、なかなか方向性が見えないんです。だから、どういうふうな形で実現していったらいいのかわからないんです。

それから、就学時前の子どもということを見ると、幼稚園に関係した方がこの委員の中にいらっしゃる。そうすると幼稚園や家庭で非常に不安な形で、孤立無援で子どもを育てている人たちの立場をどういうふうに、単なる推測じゃなくて考えないといけないのかとか、そういうこともなかなか市民としてはつかめない。そういう方たちの意見に何らかの形で私たちが接することができるのかとか、区の方でもある程度つかんでいらっしゃるのかなというふうにも思わないでもないですけど。

何かよく訳のわからないままに、何となくちょっと違うというか、ちょっと mismatches の感じを抱きながら走っていつか止まらないというふうな方向に行くんじゃないかという不安を常に持っているんです。

だからもうちょっと具体的に、区がどういうことを思っていたかとか、例え漠然としたものであっても、こういうことを考えているということ、もうちょっと情報開示してほしいなと感じています。私たちはそれなりに率直にいろいろ言っているんですけど、お互いに立場が違って、視点が違ったところから意見確認しているだけです。もっと議論をたたかわせば絵空事でない、実りあるビジョンになっていくんじゃないか。そうしたいなと常に思っているんですけど、そこは何かならないんでしょうか。

(会長) ちょっと、おっしゃっていることの意味がよくわからないんですが、要するに区のことをもう少し情報として提供しろということですか。

(公募委員) 考えていることとか、漠然とでいいですよ。これまでやってきたこと、それから、やりたいがやれなかったことなどを。行政には、当然、やりたいことは山ほどあって、何をやらないでいくかということの選択が非常に大きいと思うんです。そういうことをもうちょっとフランクに話すと。それから、小さい子どもを抱えている人たちの情報を、もうちょっと広く知りたいです。今までいろいろ配っていただいた資料を見たり、アンケートも拝見しましたけれども、それだけではどうもつかみきれないような気がして。私たちが狭い範囲だけで発言して、そういうこともカバーできるんでしょうか。私1人じゃなくて、皆さんがそういうふう集約していても、果たして、私たちが普段会ったことのない人たちをも含めた形でもって、何かを提言していけるんだろうかということ、すごく不安に思います。

私たち普通の市民というのは、やっぱり小学校とか病院などで、ああ、こういう人がいたのかとびっくりするような、その程度の狭い体験しかありませんから、そういう意味で、もっと広い

体験とか状況を、情報として行政がつかんでいる範囲で公開してほしいと思います。

(会長) 例えばいろいろアンケートを配っていますよね。それから今、アンケートをまたグループで取ってくださっているところもあるんですが。それから、私たちが一般的に新聞、雑誌とか読んでいろいろ情報という以上に、そういう情報というのを何かイメージされているんでしょうか。

(公募委員) 何かちょっと、形の上ではいろいろ拝見しているんですけど、どうもなかなかつかめないんです。それから、例えば、幼稚園に行っている人たちがどういう状況なのかということや推測でしか語れないので、もうちょっとどこかで意見をまとめてくるとか、そういうふうなことも必要じゃないかなと思うんですけど。

(会長) それは、そういう今アンケートを取ってくださっていますけれども。

(公募委員) 私はちょっと不安を感じています。

(副会長) 例えばですね、第3グループで出ている「企業による取り組みへの支援」というところがございましてね。ここで例えば、文京区の既存の取り組みというのが、下から7番目ですかね、中小企業向け融資あっせん制度というのがありますね。例えばこの部分で、文京区の方に中小企業向け融資あっせん制度がどれくらい使われていて、どういう企業が申請を出しているのかということが分かれば、少しは役に立つということで理解したらよろしいですか。

(公募委員) それだけじゃないんですけど。

(副会長) 例えばということですね。例えば、文京区の事業所で、これまで何かの形で表彰されたようなところとか、これに該当するような部分とか、あと文京区は共働き世帯が多いとなっているんですけど、具体的にはどのくらいなのかとか、そういう数字の部分もあればということで理解すればよろしいですか。

あと、委員の中に幼稚園にお子さんを通わせていらっしゃる方がいまして、お友だちにたくさん幼稚園の方もいらっしゃるようなので、もしよろしければお話しとか、意見交換をしていただけたらと思います。あと、ご自宅で子育てされていて、たくさんネットワークをお持ちの委員さんもいらっしゃいますので。汐見会長もそういったグループのお母さんたちをたくさん、もう専門ですから、知っていらっしゃるんで、いろいろアドバイスもできますし、若干ながら私の方でもお手伝いできるかと思っております。足りない情報、こんなものがほしいということがあれば、またおっしゃっていただければと思いますが、いかがでしょうか。

(団体推薦委員) 確認なんですけれども、この保育ビジョン策定委員会を立ち上げるにあたって、区側の言い方としては、地域福祉計画の中の子育て支援計画の中の就学時前児童の部分策定するものであるという、そこと連携するものであるという説明だったと思うんですね。汐見会長がおっしゃっているビジョン、イメージとか像とか、こうあったらいいねというものを描くということは大事で、前にもお話ししたように、ぜひ私もそういうものを描きたいと思いつつ、やはりすぐに、もうすぐにでもこうしてほしいというものがあって、そのためにはどうしたらいいかというものをビジョンの中に、表現はあれですけど、区がすぐに飛びついてくれるような形で入れたいというのが私の小さい野望なんです。

ちょっと専門もありますので、そういうところで、これはできそう、できそうもないんじゃないかというような、私が仕事上思っているような情報も生かしながら、この委員会に貢献できるんじゃないかということで立候補し、推薦をいただいて、団体の選出ということで出ているんですね。私が先ほど言ったことは、例えば資料の中に、特区申請でもしなければ絶対に無理、というようなこともかなり入っているわけですよね。それは行政の方は十分ご存知で、私が見ても

分かるものがあるぐらいですから、こんなことは入れても絶対に無理だよねというふうに、すでに行政の方は見て思っているんじゃないかなと思うんですね。これについては、もうちょっとこうしたらいいのでは、ということ行政の方は考えながら、このワーキングの結果とか、議論をお聞きになっているんだと思うんですね。

ですから、そういったこともすべて区の方でどういうふうに、先ほどほかの方がおっしゃっていましたが、やろうと思っていたんだけどだめだったのは、何でだめなのかというところがこちらは分からないのに、ビジョンばかりあったらいいねといっても、でもこれはここがこうだから今までできていないんですよという。蓋を開けたら、結論はそうだったということでは、私たちは何のために時間と力を使ってまとめているのかということが分からないんですね。それこそ国と一緒に動かしていきましょうというようなことで、すべての分野について区と一緒にこれからもやってくれるという、そういうビジョンであるのであれば、もちろんまったく協力するのにやぶさかではないんですけど、明らかに、どう考えても区のレベルではどうしようもならないことが、この時点でもかなり入っているのではないかと私は思うんですね。

(会長) すみません、それはどこのことでしょうか。

(団体推薦委員) 歩道がどうの、ということについて言うと、文京区は福祉のまちづくり条例というものをまだ持っていないので、それをつくるのか、つくらないのかとか、そういった、ここと全然関係のないところのお話になっていたりとか。

(会長) どうしてですか。

(団体推薦委員) 管轄している課が違うという。

(会長) 区長に諮問を受けているわけですから。例えば、ここだけは自動車が速く走れないようにでこぼこのものを造るとか、例えばオランダでやっているボーンエルフみたいな運動がありますよね。あるいは、何時から何時まではここはあまり車が通らないような道路にするんだという、そういうモデル道路をつくっていくことによってというようなことは、これは区でできるんですけどね。

(団体推薦委員) それについては、すでに区はやっている場所があるんですから。

(会長) ありますよね。だからそれをもっと、その成果を確認しながら全区に広げてほしいとかです、そういうふうなことを私たちは書くしかないんじゃないですか。

(団体推薦委員) 先ほど私が言ったのは、じゃあそのことについて、こういうことをやりますよ、というような情報提供が適時適切に区の方からあれば、まったくそういうことについて全部、区でやっているのか、やっていないのか、できているのか、できていないのか、というようなことをみんなが分かって議論しているのであればいいんですけど、そうではないようなことも多くて。そうだとどうしても、文京区であればというよりは、一般的な保育全体のというふうになってしまっていないのかということ、非常に危惧しているんですけども。

(会長) ちょっと会長として申し上げたいんですけども。これができるか、できないかということ、初めから計算して、それでどうせできっこないようなことを書いても仕方がないというような、初めから敗北的な立場でビジョンをつくってほしくないんですね。今の政治の下で、実現するのが非常に難しいことはたくさんあるに決まっていますよね。だけどどんな時代だって、私たちはこういうものがないとおかしいとか、絶対にちゃんとした子育てをするためにはこういう環境が必要なんだという、そういう夢だとかビジョンをみんなで語り合ったから、少しずつ社会は変わっていると思うんですね。

実際につくったものについて、すぐにこれはできそうだというものと、これはかなり時間がか

かるなというものは間違いなくありますよね。だけれども私たち区民としては、ぜひやっぱりこういうことをつくってほしいんだと、これは私たちの意志なんだという、そういうものをちゃんとつくっていかなければ、本当の意味での行政を動かすことはできないと、僕は個人的に思っているわけです。

だから、初めからできそうにないことを、虚しいというふうに感じるんじゃなくて、これは今回をきっかけに、少しでもそういうまちをつくるために私たちの意志を示そうじゃないかという、そういうビジョンをつくっていただきたいんですよね。どうしてそうやって後ろを向いちゃうんですか。

(団体推薦委員) 汐見先生がおっしゃられたようなビジョンづくりをすることについては基本的に賛成で、非常に重要だと思います。それで、私なりに文京区の住民として、特にこの数年間文京区の行政の方々、あるいは政府の方々といういろいろお付き合いをさせていただいて、なぜそうなるかについての感想だけちょっと申し上げれば、この後、建設的にいくかなと思うんです。どういうことかといいますと、先ほどのご意見は、僕はたぶん、仕事の進め方としては王道だと思います。ちゃんと資料をつくって、どこがどうできていて、どこができていなくて、なぜできなかったかを最初に資料を準備して議論をしないと、というのは、もちろんそうだと思います。

だけど、残念ですけど、今の文京区の人手および、ちょっと言葉がきつくて申し訳ないですが、現在持っている能力からすれば、それは非常に厳しいです。その背景には、繰り返し申し上げていきますけど、特に区というのはつい最近、本当の意味の基礎的自治体になったばかりです。いまだにほとんどの仕事というのは、23区全体で話し合っただけで決めています、正直申し上げて。その中で初めて、自由に企画とか立案ができる機会が与えられたわけです。ですので、這えば立て、立てば歩めの親心なんですけど、ちょっと表現は恐縮ですけど、今ようやく独立した、自立した自治体、企画のできる自治体として、はいはいを始めて歩もうとしている段階だと思うんです。

私はそういうことについて、正直申し上げて、初めはかなりいら立ってもしました。というのは、私はどうしてもいろいろな自治体とお付き合いがあって、23区の中でも非常にしっかりやっていたらっしゃるところと、あと政令指定都市とのお付き合いが多いものですから、どうしても内々そこと比べてしまっていて。クラスの中でよくできるお子さんを見て、うちの子は何だろうと思うみたいなものなんですけど、僕はそれはあきらめて、これは一緒にやっただけです。こちら側も言いたいことを言わせてもらって、一緒に育っていけばいいじゃないかと。国側にもいろいろ問題はあります。ですけれども、一緒に育っていけばいいじゃないか、とあるとき思い直すことにいたしました。

ですので、私の今の心の支えになっているのは、第2回的时候に汐見先生が、今度でどこまでできるか分からないけど、これはビジョン2006でいいじゃないかというふうにおっしゃっていたことです。

実は第3グループでも、さっきおっしゃっていただいたんですけど、これはいったい何になるんだろうか、という疑問がかなり出たんです。そのとき私なりにお答えしたのは、これはありていに言うと、本当はブレインストーミングを1回やって、問題点を洗い出して、それでファクトファインディングをして、また戻して議論をするという、二度三度やらないとできないようなものを、汐見先生にはとにかく何か仕上げてくれという、大変過酷な義務が課せられているわけです。それを考えると、ブレインストーミングプラスアルファぐらいにいくしかないのかな、というふうに自分は理解しています。私の理解は間違っているかもしれませんが、私はそう理解して自分を納得させていますというふうに申し上げたいところです。

議論がいい方向にいつているんじゃないかとかご判断をされた委員もいらっしやって、それはおっしゃる通りだと思います。ただ、あえて申し上げれば、そういう視点でいこうということが、ほぼ初めから共通理解になっていたんじゃないかと思っていたのが、なっていなかったのが共通理解となったという進展があったのかなというふうに私はとらえています。

それから、あと2点だけ申し上げますと、もう少し大きな方向性になりますと、なぜここに区からの方向性が出されないかというのは、これはある意味で考えたら当然であります。普通、私もビジョンづくりをした経験がありますが、担当者がある問題意識を持っていて、自分なりの仮説を持って、それを何とか検証したい。外れているのであれば、どういう施策がいいかを自分でつくりたいと思っつくるものなんです。

ところが保育をめぐる行政というのは、非常に今、ある意味で方向性がはっきりしない。先生のご案内の通りです。文京区ですと、コスト削減、民営化、定員を減らしたいという中で、端から切っつていこうというお考えもあつたんでしょう。保育はかっつこの狙い目になつたわけです。一般財源化もあつたわけです。それで進んできたところ、どうも世の中の風向きが、1.29のショック以来、子育て重視に変わつてきたし、横浜の裁判なんかもありまして、方向性をどう持つていつたらいいのかということ、今、区自身が悩んでいる、区長さん自身が悩んでいらっしやるんだと思うんです。その悩みがこの場にそのまま出ているので、我々も一緒に悩んでしまう。普通ですと、ビジョンというのは、こうしたいと思うんだけどどうなのか、ということがばーんと出てきて意見を言うから、すつとまとまっつていくんですけど、これは悩みを我々が共有しなければいけないのかなというふうに思っつています。

何かどの立場で議論しているか分からないですけど、そういうものだと思っつて、少しでもいいものになるように議論をできないかなという、珍しく間を取るようなことを言いますけど。

それから、あと10秒だけ取らさせていただくと、文京区の図書館つてもものすごくよかつたんです。

(会長) かつつてはね。

(団体推薦委員) 私は学生時代から使っつていたり、それから社会人になつてからも、夏休みに調べ物に行くと、司書の人があつと寄つてきてくれて、本当にここまで一住民にやつてくれるのかと思うようにリストを出してきて、「ここにあれがあります。この図書館にはないから、あそこから取れます」と調べてくれたんです。もう今は全然違います。もしそれが元に戻るんだったら、私は一区民として賛成をします。以上です。

(会長) 今、図書館は本当にひどいことになつていっているんです。東京都の図書館も、司書を全部引き払うことになつていいますね。沖縄では司書は全部クビになりました。みんなが非常勤になつてしまつて、もう本当に気の毒です。何を考へているんだという感じがしますけどね。

だから文京区は、文京という名前もあるぐらいですから、少なくとも、例えば区民が図書館で本を借りている冊数は、東京一であるというぐらいにしたいんですよ。そのためには、やっつぱり図書館が本当に使いやすくなつて。

だいたいアメリカなんかだったら、図書館にいちいち行かなくて、電話一本で運んでくれるのが当たり前なんです。1軒から800メートル以内に必ず図書館がなければいけないとか、そういう条例もあつてですよ。それに比べてはるかに遅れているのに、さらに後退させるというのは…すみません。

(公募委員) 先ほどおっしゃつていたように、私もどうしても、どうしても、どうしても何とかしてほしいことがあつて、それを訴えたいがためにこうして公募委員として応募して来ている

わけなんです。実情を申し上げまして、以前は 15 人定員の緊急一時保育施設があったんですけども、今はそれが小さくなっちゃって、家の遠くの方に 1 軒ありますが、定員はたった 3 人なんですよ。区からの説明では、だいたい平均利用が毎日 10 人だったから、それを 3 個に分割して 3 カ所に見せました、というような説明なんですけど。試験的にやっていますと。じゃあ試験なんだから、失敗したらすぐ対応してくれるのかというと、来年の 4 月までは何も変わりません。うちは実際に病気になっても預けられないこともあるんですね。どうしようもできない状況が発生したりしてきていて。じゃあ私は何のためにここで訴えているんだろうという気持ちがあるんですけど、それがすごく後ろ向きな理由です。

こうやって参加、初めは本当に夢のように、私が訴えればきっと何かが変わるに違いないと。家族もサポートしてくれていたんですけど、どんどん家族の中でも、何か選挙のいいように使われているだけなんじゃないのとか、チクチク、チクチク横で言われると、何か利用されたままで終わるんじゃないかとか、そういうムードが実はこの部屋の中にも少しならずありまして、何かどんどん暗い気持ちになるんですね。私が先ほど区長と直接話をさせていただけないかと申し上げましたのが、みんなちょっぴり心の中で、本当にやってくれる気ありきで集まっているんだろうか、私たちという。私は本当に何も肩書がないのでぶっちゃけたことが言える立場なので、あえて申し上げるんですけども、そういった疑いの気持ちにみんななってきたんです。

汐見先生のおっしゃることは本当に重々分かっているつもりではいるんですけども、ここでまとめるのがお仕事ということでいらしているのも十分分かるんですけども、本当に区としてがんばってくださいよ、ということも汐見先生言ってください。

(会長) それは、僕は区長に説明しなきゃいけないときがたぶん来ると思いますから、そういうときの場をきちんとつくって、それで、僕らも説明責任がありますから、それはなんとかしたいと個人的に思っていますけれども。

こういう文書を一生懸命つくったからといって、そのうちのどのくらいが実際の区政の中で具体化されるか、ということについて、そんなに大きな期待をすぐにはできないことも分かりきっているわけですね。ただ、こういう努力を積み重ねていかないと社会が変わらないということも、また事実ですよ。ですから、言ったことが全部はすぐには実現しないということは、これは覚悟の上なんです。けども、こういうふうにしていくしか、日本の国を救う道はないということを出すということも、私たちには必要だと個人的には思っているわけです。

例えば道路をこうするという 1 つ取ってみても、それを本気になってやったとしたら、それだけでこういう委員会を何回も持たなきゃいけないはずなんです。例えば道路といっても、国道と区の管轄している道路では条例だとか、法律が全部違って来るわけですね。管轄するところが違ってきますから。そういうことを細かにやりはじめると、おそらく大変ですよ。だから、私たちはそこまでは今回は踏み込めないし、踏み込む必要もない。ただ、区としてはこういう方向で道路行政をやってほしいということについて、私たちの意志を示しておくという、その程度しかできないと思っているんですよ、これは。一個一個をもしもやっていったら、相当大変なことがいっぱい出てきます。

だから、先ほどおっしゃってくださったように、ある程度、まあそういうものだと思ってやっていくしかないという、そういうふうを考えていただきたいと思っているんです。ただ、はっきりとこういうものをつくりたいという意志だけは、私たちは示しておきたいということです。

(団体推薦委員) 後で、なぜそうなったかというご説明があると、また納得感も違って来るんじゃないかと思うんです。出しっぱなしでは。

(会長) そうですね。

(団体推薦委員) そこが1つ、やっぱり重要。

(会長) 今日も僕ら事前に議論したんですが、いろいろ出ているんだけど、これがなぜ必要なのかというところを書き込んでいただきたいということですね、各グループで。こういう現実があるんだと、だからこれをぜひという、そのところを必ずビジョンの説明として書いていただきたいというのが、実はお願いなんです。

スケジュール的に言いましても、次回の委員会は今月の28日ですよ。その前までにまとめていただいて、それをある程度整理したものを28日に出さなきゃいけないわけです。そうすると、1週間前としても21日か22日でしょう。そのあたりまでに、ここに書いていただいたことを一個一個、こういうふうな理由で、だからこういうふうにはできないか、というものをビジョンとして書いていただくのがグループの作業になっていくわけです。

たぶんまだ不十分だと、間違いなく不十分だと思います。だけど、それは後でもう1回整理していくので。それから、各グループの中でこれが目玉というか、これはぜひ大急ぎでやってほしいということ、やっぱり前を出してほしいんですよ。長期的にはこういうこともやってほしいということ、これはぜひすぐを実現してほしいというようなビジョンと、ある程度小分けしておかないと、ずらっと並んだだけになってしまうと思うんですね。そういう作業もやらなければいけないと思いますので、かなり作業は急がれるんですね、申し訳ないんですが。

先ほどここに出てきているものを、1つはビジョンの形に練り上げていってもらえないかということ、それからなぜそれが必要なのかということについてちゃんと書き込んでいただけないかということですね。それをぜひお願いします。

それから、ちょっとスローガンの的にまとめるというようなことを、できればぜひやっていただきたいと思います。

(団体推薦委員) 1点だけ確認なんですけど、そうしますと、内容的に今の段階ではどう考えても、これは特区申請でもしなければできないかもしれないものも自己規制する必要はないわけですね。

(会長) ないと思います。特区申請してもらいたいと。

(団体推薦委員) むしろ、特区申請をしたらいいじゃないかと、してほしいということを出してもいいわけですね。

(会長) そうです、そうです。それはぜひ出してください。実際に区長がそれをどこまで飲むかどうかというのは、それは何とも僕も言えませんが、私たちはなるほどというビジョンを、これで区民のためになるんじゃないですかというものをつくれれば、それを大事にしてくださる以外にないというふうに、私たちは、いろいろな意味で使えると思うんですね。

それでは申し訳ありません、時間がなくなりましたが、引き続きグループで議論をしていただきたいと思います。21日ぐらいまでに、もう1回グループの議論を持っていただきたいと思います。そこで文章をつくらせていただきたい。では、委員会はこれで終わりとしします。引き続きグループでの議論を始めてください。